

# 若年性認知症

## 不安な人は認知症専門医のいる病院へ

### 若年性認知症とは

若年性認知症とは、40歳～64歳までに発症した初老期認知症に、18歳～39歳までに発症した若年期認知症を加えた認知症の総称です。若年性認知症という独立した病気があるのではなく、発症年齢で区分しているため、認知症の原因はさまざまです。いろいろな疾患を含んでいます。平成21年の調査では、国内の若年性認知症の患者数は約3万7800人で、高齢（65歳以上）で発症した認知症の1000分の1以下の頻度でした。発症平均年齢は51・3歳で50歳以上が全体の85%を占め、39歳以下は6%と多くはありませんでした。

### 原因となる疾患

若年性認知症の原因疾患では、脳卒中の後に起こる①脳血

管性認知症が一番多く（40%）、高齢者の約2倍となっています。逆に、高齢者で一番多い②アルツハイマー病は65歳以下では高齢者の半分以下（25%）であり、次いで③頭部外傷の後遺症（8%）、④前頭側頭型認知症（4%）、⑤アルコール性認知症（4%）、⑥レビイ小体型認知症/パーキンソン病（3%）の順となります。いわゆる高齢者での①②④⑥の四大認知症の占める割合はかなり下がり、認知症の原因となる疾患も多様となっています。

### 若年性認知症の特徴

特に若い人がアルツハイマー病になった場合は、本人が認知症と疑わない場合が多く、発見が遅れがちになる傾向があります。物忘れの訴えが最前面に出てこないことも多いです。例えば、仕事や子育て真っ盛りの

年代の人が発症した場合、発症初期ではうまくいかないことが増え、その異変に自分で気づきやすい傾向があります。しかし、努力しても症状に改善がないと、今度は不安や焦燥感、気分の落ち込みが強くなり、身体や気分に関する訴えが多くなります。悪化すると妄想が出現し、うつ状態や興奮が強くなり攻撃的になる「行動・心理症状（BPSD）」が現れやすくなります。

現在でも「認知症は高齢者に多い病気」というイメージが強く、医療関係者の間でも若年性認知症の理解はまだ十分ではありません。特に、初期はうつ病や更年期障害などと診断されていることもあります。そのため、認知症が疑われる場合は、経験豊富な認知症専門医がいる医療機関への受診をお勧めします。



齊藤 脳外科クリニック  
齊藤 裕次 先生

佐伯地区医師会（ホームページ <http://saikima.jp/>）

佐伯地区医師会は、廿日市市・佐伯区湯来町・江田島市（能美町・沖美町・大柿町）で開業または勤務している医師で構成されています。日本医師会や広島県医師会と協力しながら、地域に密着した医師会として約15万人の地域住民の健康を守るため、学校医、産業医、健診、救急医療、在宅医療などさまざまな仕事をしています。

なるほど  
健康講座

問い合わせ

健康推進課 ☎ 1610